

# 有明海漁業実態調査

## シバエビ漁獲状況調査

野間昌平

有明海の重要な水産資源の一つであるシバエビ *Metapenaeus joyneri* は、近年、漁獲量が増加傾向にあるものの、今後も持続的に漁獲利用していくためには、資源管理対策を講じていく必要がある。しかし、これまでにシバエビの漁獲動向に関する研究は、有吉ら<sup>1)</sup>や徳田<sup>2)</sup>が報告しているのみで、近年の有明海における漁獲動向については報告がない。そこで、シバエビを漁獲している投網漁業者に操業船日誌の記入を依頼し、操業状況を調査したので報告する。

### 方法

調査では、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する投網漁業者2名を選定し、2020年4月～2021年3月までの出漁日に、漁獲量1kgあたりの尾数、漁獲場所について操業船日誌の記入を依頼した。得られた日誌の情報を基に毎月の平均漁獲量、CPUE（1人1日当たりの漁獲量）および海域別漁獲量を推定し、漁獲の状況を明らかにした。

### 結果

投網における月別の平均漁獲量およびCPUEを図1に示した。投網によるシバエビの漁獲は10月から3月にかけて行われた。平均漁獲量は、10月から2月にかけて1,000～4,950kgまで増加し、その後、3月には1,675kgまで減少した。CPUEについても、平均漁獲量と同様に10月から2月にかけて114～449kg/人/日と増加した。

月毎の海域別漁獲量を図2に示す。シバエビの漁獲は主に有明海東岸域で操業され、その中でも10～1月は熊本県白川・緑川河口域を中心に、2～3月は熊本県菊池川河口を中心に操業され、季節に応じて漁場の変化が見られた。

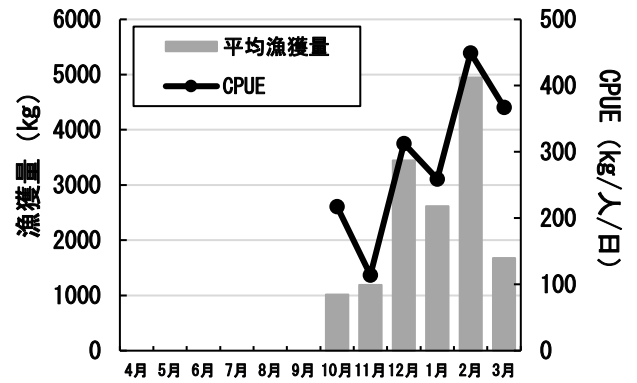


図1 平均漁獲量およびCPUE（1人1日当たりの漁獲量）の月別の推移

### 文献

- 1) 有吉敏和・皆川 恵・伊藤史郎・中島則久・吉本宗央(1999) : 有明海湾奥部のシバエビの漁業と生態, 佐有水产研報. (19), 25-36.
- 2) 徳田真孝(1994) : 今川河口域におけるシバエビの成長および発生量からの漁獲予測, 福岡水技研報. (2), 43-52.

